

峠を越えて行け

校長 加藤 香洋

遙かに山並みが見渡せるこの季節になると、いつも記憶の底から浮き上がり、私の心に寄り添ってくれる詩があります。

「峠」 真壁 仁

峠は決定をしいるところだ。...

風景はそこで綴じあっているが ひとつを失うことなしに 別個の風景にはいつてゆけない。

大きな喪失にたえてのみ あたらしい世界がひらける。

峠にたつとき すぎ来しみちはなつかしく ひらけくるみちはたのしい。

みちはこたえない。みちはかぎりなくさそうばかりだ。...

ひとはそこで ひとつの世界に別れねばならぬ。...



さて、進級・進学する皆さんは、今まさに学校生活の「峠」に立っていると言えるでしょう。

今ほど安全が保障されていなかったその昔、旅人は必要な荷物をより分け、目指すべき地点までの地図を読み込み、悪天候への備え抜かりなく、準備万端整えて峠を越えて来ました。皆さんも同様です。この機会に、今年度の学習の成果と課題を整理し、これからの自分の進路を実現するために必要なことをよく考えてください。大切なことは、「今どこにいるか」よりも「どの方向を向いているか」ということです。向きを変えるだけで、見える風景は変わってきます。皆さんそれぞれが峠を越えて、自分なりの新しい道に一步踏み出すことを願っています。

シリーズ「進路を考える」その3

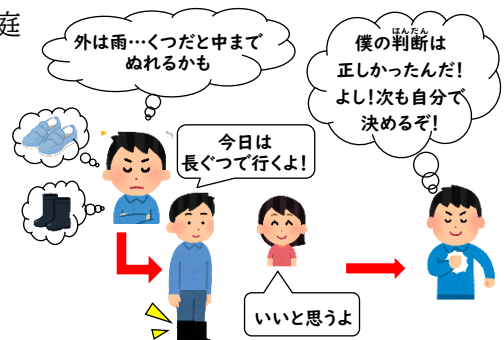
～自己選択・自己決定と進路～

進路指導の目的は、生徒達が「進路を決定すること」ではなく、「進路を自分で決めることができる力を育てる」ことです。その基盤となるのが、自分で「選ぶ」、「決める」力です。

学校では、学習の計画を見守る生徒自身で考える、校外学習へ行く際に上着を着用するかどうかを自分で判断する、優先順位をつけて行動するなど、学校生活の様々な場面において自分で選択したり、決定したりする機会を意図的に設けながら自分で「選ぶ」「決める」力の育成を目指しています。

また、このような自己選択・決定の場において大事なことは、生徒の決断を「認める」ということです。そうすることで、「自分の判断は正しかった」という自信が付き、自分で選択や決定をしようという意欲をもてるようになります。その積み重ねが、自分で進路を選んだり、決定したりできる力につながっていくのです。

自分で選んだり、決めたりする場面は、学校だけに限らず御家庭にもあるかと思います。今日何を着るか、どんな靴を履くか、何を持っていくかなど日常の小さな場面にそのチャンスが存在しています。とはいえ、自分で判断するには、多くの時間を要する場合があります。ぜひ、無理のない範囲で、できるところから、自分で「選ぶ」、「決める」、またお子さんの決断を「認める」機会を作っていただければと思います。



(※この記事は文部科学省の「生徒指導提要」の内容を参考に作成しています)